




【雄武地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●水産物のブランド確立と消費拡大

(1) 水産物を核とした地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿) (Plan)		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】 循環型社会にも対応した持続ある水産資源の確保 ①つくり育てる漁業の推進</p> <p>【主な取組】 ・ナマコ増養殖試験</p>	<p>【取組の様子】</p>  
取組場所		
現状における取組実施の背景	元稲府漁港内静穏水域及び外海施設を利用した水産資源の増養殖試験調査の実施	
取組により期待する効果	ナマコ増養殖サイクルの確立に伴う安定漁獲及び漁業所得の向上	
(2) 取組内容・実施体制 (Do)		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>【取組内容】 元稲府漁港の静穏水域を有効利用するため、漁港内外においてナマコの増養殖試験を実施。</p> <p>R3.6 放流ナマコの追跡調査(前年の馴致施設引き上げ。試験効果確認) R3.6 漁獲サイズの選別(110g以上)。外海(禁漁区)へ二段階放流 R3.10 馴致施設の餌付 R3.10 人工種苗の稚ナマコ放流6万個(石詰礁 3万個体、馴致施設 3万個体)</p> <p>【実施体制】 漁業者、漁協</p>	
(3) 効果項目に対する評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港内での種苗成長確認</li> <li>・馴致施設による成果確認</li> </ul>	
反省点	二段階放流の際に採集量が少ない場合、資源量の減少なのか、ナマコを見つけられないのか見極めが難しいため、複数年でのデータが必要となる。	
(4) 取組の改善措置 (Action)		
取組内容の改善点	かご型馴致施設でナマコの越冬は可能であることが確認されたが、複数年データを基に、中期的プランを決めなければならない。	
取組の実施に必要なもの	人力作業であることから人工が必要となる。	

【雄武地域】

●水産物のブランド確立と消費拡大

(1) 水産物を核とした地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿) (Plan)		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】 循環型社会にも対応した持続ある水産資源の確保 ①つくり育てる漁業の推進</p> <p>【主な取組】 ・ウニ移植作業の効率化を図るための「ウニザル」を活用したウニ採取試験</p>	<p>【取組の様子】</p>   
現状における取組実施の背景	ウニの歩留りを向上させるための移植作業を手作業にて行っているが、高齢化が進むなか、効率化・省力化を進める必要がある。	
取組により期待する効果	作業の効率化と歩留り向上に伴う安定漁獲及び漁業所得の向上	
(2) 取組内容・実施体制 (Do)		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>【取組内容】 雄武、沢木地区に、コンブを入れたウニザルを設置。 3日間設置し、ウニザルの効果を算出するため、採取したウニの採取状況(個体数/kg、分布年齢)を分析。</p> <p>(雄武地区) R3.6.24 設置 R3.6.26 採取数 1,558 個体(ザル:大 20、中 5、小 5)</p> <p>(沢木地区) R3.6.26 設置 R3.6.28 採取数 338 個体(ザル:大 10) 【※前年 104 個体 ザル:20、※前々年 1,342 個体 ザル:10】</p> <p>【実施体制】 漁業者、漁協</p>	
(3) 効果項目に対する評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	昨年は、海況(時化)の影響により、大幅な減となっていたが、本年は一昨年並みに採取することができ、個体の重量測定及び年齢査定を効率的に行えた。	
反省点	試験は引き続き実施するが、海況により蛸集状況にも変化が起こるため、バックボーンとなるデータ収集が必要である。	
(4) 取組の改善措置 (Action)		
取組内容の改善点	ウニザルの引き上げは人力であることから、設置期間、コンブ量によるウニ蛸集量の分析が必要	
取組の実施に必要なもの	人力作業であることから人工が必要となる。	



【雄武地域】

●水産物のブランド確立と消費拡大

(1)水産業を核とした地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型社会にも対応した持続ある水産資源の確保</li> <li>③漁場の観光保全と循環型社会への対応</li> <li>・「雄武の宝(資源・取組・文化)」を明確にしたまちづくり・ひとづくり</li> </ul> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幌内川流域での植樹運動</li> <li>・宮の森公園での育樹事業</li> </ul>	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	環境保全の意識と地元資源の永続的な維持を図るための町民の意識向上を進める必要がある。	<p>【取組の様子】</p>  <p>お魚を殖やす植樹運動</p>
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森づくりによる漁場環境の保全と天然魚資源の増加が図られる。</li> <li>・地元小学生と実施することにより、環境意識の向上が図られる。</li> </ul>	
(2)取組内容・実施体制(Do)		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>【取組内容】</p> <p>1) 「北の魚つきの森」に認定されている幌内川流域の植樹運動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お魚を殖やす植樹運動 (R3. 6. 1 開催)」</li> <li>・植樹本数 500 本 (前年 600 本) 参加者 55 名</li> <li>・総植樹本数 24,000 本</li> </ul> <p>2) 例年植樹活動を実施していた「緑と親しむ町民のつどい」において、本年から育樹 (枝打ち) 活動として宮の森公園にて実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「緑と親しむ町民のつどい (R3. 9. 26 開催)」</li> <li>・枝打ち本数 100 本 参加者 40 名</li> </ul>	 <p>緑と親しむ町民のつどい</p>
(3)効果項目に対する評価(Check)		
効果目標の達成度評価	植樹運動は小規模ながら開催できた。	
反省点	事業の根幹である環境意識面については、「お魚を殖やす植樹運動」では漁業関係者のみの実施となり、充実性を持たすことはできなかったが、「緑と親しむ町民のつどい」は町民・地元小学生とともに育樹をすることにより、環境意識の向上を図ることができた。	
(4)取組の改善措置(Action)		
取組内容の改善点	新型コロナウイルス感染症の収束が本事業の趣旨に沿った継続実施につながる。	
取組の実施に必要なもの	過去に植樹した森林について、本年度は H15～H19 年に植樹した箇所の間伐作業を実施したが、引き続き、生育に支障をきたしている植樹箇所の整備経費が必要である。	